

社会福祉法人 愛全会 「特別養護老人ホーム サン・グレイス」新築移転

当施設は昭和50年の開設以来、多くの入居者様とご家族様のご理解のもと、また職員に支えられながらお陰様で約38年に亘る運営をいたしてまいりました。年々建物の老朽化が進行する中、東日本大震災による被害を目の当たりにし、将来に亘る地域や入居者様の安全性と快適性を早急に確保することが急務と捉え、施設開設から40年を迎える節目の年に移転・増床新築することといたしました。

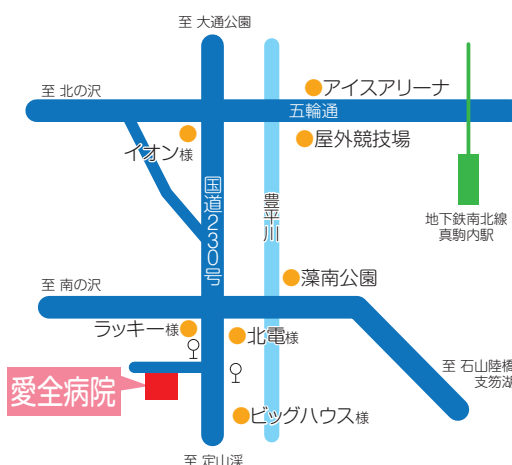
新サン・グレイスは入所150名と短期入所10名の定員合計160名（ユニット型では札幌最大）に増床すると同時に、デイサービスを併設して生まれ変わります。新施設では『ご本人らしい住まい』『楽しい』『嬉しい』『自立』をこれまで以上に意識したサービスを提供させていただきますので、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



医療法人愛全会 愛全病院

〒005-0813 札幌市南区川沿13条2丁目1番38号
TEL (011) 571-5670 / FAX (011) 572-8005
<http://www.aizenkai.or.jp>

病院機能評価 認定第MB44-3号
審査体制区分: 4 (Ver6.0)



じょうてつバス

- 地下鉄真駒内駅
[南95] 硬石山 行き
[南95] 石山1条6丁目 行き
- JR 札幌駅
[7番] 定山溪温泉 行き
[7番] 藤野4条5丁目 行き
[南55] 硬石山 行き
- 地下鉄豊水すすきの駅
[南55] 硬石山 行き

● 最寄りの停留所
『川沿12条2丁目』にて下車

愛全病院 理念

私たちは、人間愛と責任感に基づき、患者さまを中心とした
生命を大切にする心 思いやりを大切にする心 学ぶことを大切にする心
をもって地域の安心づくりに努めます。

1. 人間愛と責任感に基づく、優しい医療に努めます。
2. 患者さまへの十分な説明と同意、並びに患者さまの選択の意志の尊重に努めます。
3. 患者さまのプライバシーを尊重し、また、個人情報の保護と診療情報の提供に十分な配慮をいたします。
4. 良質な医療サービスを提供して、地域の皆さまの安心づくりに貢献します。
5. 入院・通院から在宅まで「継続的な」医療とリハビリテーションの提供に努めます。
6. 常に患者さまの声に耳を傾けて、暖かみのある療養環境づくりに努めます。
7. 良質な医療の提供のため、たゆまざる努力と研鑽に努めます。

患者さまの権利

1. 患者さまは、常に一人の人間として、その人格・価値観が尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. 患者さまは、社会的地位・年齢・性別・信条・疾病の種類などにかかわらず、平等に適切な医療を受ける権利があります。
3. 患者さまは、自分が受ける治療や検査の効果や危険性、他の治療方法の有無などについて十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
4. 患者さまは、医療の内容を十分に理解し納得した上で、治療方法などを自らの意志で選択する権利があります。
5. 患者さまは、医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
6. 患者さまは、病気やその療養方法および保健・予防等について教育を受ける権利があります。
7. 良質・安全な医療を実現するためには、患者さまと医療提供者との間のパートナーとしての人間的信頼関係と双方向のコミュニケーションがきわめて重要になります。

優



すべての人に、愛を
愛全会
<http://www.aizenkai.or.jp>

Vol.
11

平成25年12月発行

〒005-0813 札幌市南区川沿13条2丁目1番38号
医療法人愛全会 愛全病院 広報委員会
TEL (011) 571-5670 / FAX (011) 572-8005

TOPIC NEWS

愛全病院 『嚥下リハビリ研究会』発足！

活動目的

嚥下リハビリの啓蒙活動

12月11日(水)

愛全会グループ全体研修
「摂食・嚥下障害診療のエビデンス」
講師 医長 居川 幸正



「家族的な愛・絆」 患者さんに対する最良のおもてなし

求められる絆 チームワーク

愛全病院 病院長 島崎 孝志



医師として40年余り急性期病院での医療を経験してきました。新たな慢性期医療・高齢者医療のフィールドは新鮮でしたが、担う役割、責任の重さを実感しております。同時にやりがい、周囲の期待などを感じており、加速する高齢社会における慢性期病院のあり方をどのように表現すべきか強く意識しております。

超高齢社会においては医療・介護への需要がますます高まることが予想され、国の方向性として介護療養病床廃止等、「病気を治して地域に帰す」という病院本来の機能を果たすことが謳われております。しかし、急性期患者の退院の受け皿となる亜急性期・回復期にふさわしい、ある程度安定した急性期後の治療やリハビリ等の機能を有する病床は不足している現状があります。そのような背景からも愛全病院に対する期待度の高さを実感しております。今後求められる診療とケアの質の向上には？キーワードは「絆」「チームワーク」です。

これまで多くの人との出会い・絆・支えがありここまできており、「人生は互助会」と実感しております。診療、ケアに当たっては常に助け合いの心を意識し、手助けをする喜びを感じてください。私たちの病院の優しさは、医師、看護師をはじめとする職員のEBMに基づいた専門技術の提供と思いやりであり、これが患者さんに対する最良のおもてなしになると確信しております。そのためには患者さん、ご家族背景を考慮した医療、いわゆるNBM (narrative based medicine)が求められます。

愛全会は病院を中心に各施設、事業所による医療・福祉・介護業務を展開しております。統合された・連続的かつ継ぎ目のないサービスの提供体制、いわゆる「地域包括ケアシステム」のモデルケースになりうる可能性を秘め

ております。今後は医療度の高い、介護の必要な患者が増えていく中、創意工夫や先進的な取り組み、大学との共同研究も視野におき、慢性期医療のあり方を発信できる病院、施設を目指しております。そのためには職員相互が「心のバリアフリー」に心がけると同時に、職種間におけるバリアフリーも大切となります。職員のモチベーションを高め、個人として、集団としての技術の向上に結びつく「チーム医療」を期待します。そのためには人材確保・人材育成の強化が不可欠と感じているところです。

こうした中、「愛全病院嚥下リハビリ研究会」が発足しました。高齢化に伴い嚥下障害への対応ニーズは年々増加しております。嚥下障害は命に直結する問題であり、愛全会の各現場においても職員が時には不安を抱えながら取り組んでいる現状があります。嚥下に関する知識と技術を共有し、全体的なスキルアップと所属や職種を超えた連携の強化を図るのが目的です。研究会の立ち上げには職員の大きな力を感じるとともに人材育成につながると確信しております。

愛全病院に赴任してから半年足らずですが、40年以上の愛全会の歴史の中に流れるもの、築き上げてきた原動力に「家族的な愛・絆」を感じます。今後もこれを大切に、患者さん・ご家族と職員の両者の満足度を高められる病院を目指して努力していきます。ご支援よろしくお願いいたします。

平成25年11月
病院長 島崎 孝志



これからもずっと、地域の皆様の生活とともに

平成25年度 第1回 健康セミナー開催

開催日：平成25年7月11日(木)

「地域の皆さまと共に歩む」が愛全会のコンセプトです。

町内にお住まいの方の健康づくりに寄与させて頂くことを目的として、健康にまつわるセミナーを毎年開催しております。今回は町内会の方を中心に約30名ほどの方々にお集まり頂き、当院島崎病院長より『消化管の旅―道の駅―』と題して、口からおしりまで消化管の構造、働きなどの内容のセミナーを実施しました。

セミナー終了後、参加者の方からは「大変良かった」、「これからも楽しみにしています」と言ったお言葉を頂き、今後も引き続き地域の方々に満足して頂けるような内容での開催を予定しております。



▲ 島崎病院長によるセミナーの様子

災害等に備えて各種救急法体験及び 健康生活支援フェア

開催日：平成25年8月27日(火)

地域との交流は愛全会グループにとって大切なものです。

真駒内地区連合会主催の各団体共同により実施された『災害等に備えて各種救急法体験及び健康生活支援フェア』に当院も参加させて頂きました。当日は真駒内地区にお住まいの方々約350名が参加され、初めに島崎病院長による「健康生活支援」に関する講演を実施した後、「健康生活支援コーナー」において骨密度や体脂肪の測定などを行い、大変盛況のうち無事終了いたしました。



第20回 愛全ふれあいまつり開催

開催日：平成25年9月14日(土)

晴天の中「愛全ふれあいまつり」を開催いたしました。

このおまつりは「敬老の日」にちなんで患者さま、ご家族さまに喜んで頂けることを目的に開催したのが始まりで、今年で20回目の開催となりました。当日、屋台では焼きとり・たこ焼き・炉辺焼きなどを提供、屋内では縁日ブースにおいて、射的、ヨーヨー釣り、写真館などを実施し、患者さま、ご家族さまとも大変喜んで頂きました。



長期人工呼吸器患者の看護師・介護士別実技セミナー

当院には12の病棟があり、そのうちの1病棟において長期人工呼吸器患者の受け入れを行っています。人工呼吸器患者は、安全管理や観察の他に人工呼吸ケアに関する専門的な知識や技術力が要求されます。そこで当院ではより安全な人工呼吸ケアの提供をめざし、看護師には人工呼吸器関連肺炎予防の要となる気道の管理を中心

に、介護士には安全を確保しながらも人工呼吸器患者の日常生活を可能な限り拡大するために必要となる知識・技術の研修を行っています。チューブ類が多い呼吸器患者に対し安全なケアを提供するために、手作りの気道模型やジャクソンの現物を使用しながら少人数での研修を繰り返し行っています。言葉だけの説明だけでなく、気道の中のことが目で見えるように画像や動画を用いて説明することで、現場への知識・技術を高められるような工夫がなされています。

